

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、三方原圏域） 第2回会議 議事録

開催日時	令和5年10月27日（金）10時から11時40分まで
参加者	委員：16人（地区9人・事業所7人） 事務局：1人 その他：18人（浜松市高齢者福祉課：2人、北区長寿保険課：1人、コミュニティ担当：1人、地域包括支援センター三方原：8人、市社協地域支援課：2人、市社協北地区センター：4人）
場所	浜松市みをつくし文化センター 大研修室
内容	<p>1. 挨拶 協議体会長</p> <p>2. 自己紹介 新任3人の紹介</p> <p>3. 協議内容</p> <p>担い手の確保につながる持続可能な地域づくりを目指して</p> <p>①令和5年度第1回協議体会議の振り返り *R5.6.29開催議事録参照</p> <p>②ICTの活用 アンケートに協力（QRコードを読み取り回答）</p> <p>③地域の活動『移動支援』</p> <p>a)資料提供・説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜松市の移動支援施策について（市） ・地域の移動を支える保険、送迎サービス補償 ・高齢者の困りごと（ニーズ）に対応する 許可・登録不要の互助活動について 活動事例紹介（映像6分） <p>b)グループワーク</p> <p>高齢者の足の問題（移動支援）を話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の交通問題や高齢者の困りごとについて ・支援を必要とする方にどんな活動なら地域でできそうか <p>c)発表（情報共有）</p> <p><三方原地区></p> <p>サロンや地域活動は乗合いをしないと参加者が集まらないのが現状。サロン活動や地域活動をするにあたり運営関係者が参加してもらうために送迎をしてしまう。三方原地区社協では、移動支援についての現状把握と運営のための情報交換を今後していきたい。実際の運営に関しては、料金のところが、家族がいても送迎が前提のサービスの場合、頼り過ぎてしまうのではないかと。怪我や事故に遭った時、責任が取れかねない。何かしらの料金をいただいて還元をしていくことが必要。検討事項として、実際に活動を始めたとして、担い手としてやってくれる方がどれだけいるのか。現状なかなか見えてこない。利用する側の考えとして、ボランティアは頼みづらい。自助でセニアカーを使う場合は、介護保険そのものを使う場合に、そういった言葉に抵抗があり申請が進まない。今後に向けて、移動支援について、地域の方へ具体的にどこで支援をしてほしいのか。どの位の人が支援を希望しているのか。ニーズの把握をしていくことが必要。</p> <p><都田地区></p>

地域の方からにこにこバスの使い勝手が悪い。時間や本数に制限がある。「一度乗ってみよう」の話で利用してみたが、買い物とかはいいと思うけど時間指定があり病院等は利用しにくい。民生委員から家族が同居で送迎しているケースが多く、移動のところはカバーができています。ごみ出しの頻度が高いので困っているとの話を聞く。虚弱高齢者がセニアカーを利用する頻度が増えている。包括よりレンタルの件数が増えていて実際に利用されている方もいる。地域で見る機会が増えて、畑とかの移動に利用している人が多い。今まで車の運転をしていなかった人もセニアカーを利用する。施設として移動支援の活動ができるかで、職員不足で施設のドライバーもギリギリなので移動支援のドライバーを担うのは難しい。セニアカーの講習会とかはできるができることが限られているとの話。ケアマネから運転免許更新時、更新できない人が多いとの話。家族が移動支援を調整していることが多い。都田地区で移動に関するアンケート調査は、随分前になるので改めて調査した方がいいのでは。セニアカーを広く知ってもらい、セニアカー専用道路ができるといい。地区社協の健康講演会でもセニアカーの周知を行う。

<新都田>

地域の課題としてバスの本数が減ってしまった。今まで通院に利用していた方も行けなくなった。地域の中に10分圏内でごみ集積所や買い物場所があるが、そこまでも困難で行けない方がいる。移動に伴ってごみの問題も地域の中では出てきている。ケアマネより、デイサービス利用者の中で、地域のサロンで対応できる方も、足の問題でサロンに通えずデイサービスを利用している。地域のサロンではなく、デイサービスを利用している方が多くなっている。ごみの問題は、訪問介護サービスのヘルパー不足でサービスに結びついていないのが現状。NPO法人を作り対応できないか。ドライバーの確保が課題になるので、財源を使い保険に入ることが必要。事故時のリスク回避につながる。学生の力を何か借りれないかは、学生は時間がなかなか取れない。「地域の活動をしたい」とか「地域でボランティアをしたい」と言う学生もいるのでマッチングをする。

4. 次回開催日程（案）について 承認

令和6年2月22日（木）10:00～ みをつくし文化センター

*事前打合せ会；1月18日（木）10:00～市社協北地区センター *正副会長出席

5. その他 配布物

- ・はじめませんか？移動サービス
- ・グリーンスローモビリティの車両導入を支援します（国土交通省）
- ・セリオモビリティショップ無料出前講座、電動アシスト付4輪自転車遊歩リベルタ
- ・出張健康講座のご紹介（雪印ビーンスターク株式会社静岡事務所）
- ・地域包括支援センター三方原の相談窓口が変わります
- ・市社協北地区センター事業チラシ（ボランティアセミナー、親子防災体験フェスタ）

	<p>6. 事務連絡 来年1月1日区の再編について調整中で確認でき次第その都度情報提供に努める</p> <p>7. 閉会の言葉 生活支援体制づくり協議体 副会長</p>
<p>今後の見通し等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の担い手が減少している中、高齢者の足の問題をどう捉えるのかを十分話し合える時間を作り、意見の共有やそれに合った情報提供ができるよう推進していく。 ・ICTの活用として、協議体会議出席者全員がQRコードを読み取りアンケートの回答に協力する形へと切り替えて対応していく。